

シクロケムは、各種シクロデキストリン(CD)のさまざまな可能性を、わが国市場で追求している。〇二年に当時の独ワッカー・ケミー日本人、ワッカーケミカルズイーストアジアのスペシャリテイケミカル部門が独立して発足した企業。CDを含むフラインケミカル製品の日本総代理店という立場にあるが、独自にCDの応用技術開発にも活発に取り組んでいる。

その機能は例えば、コエンザイムQ10(CoQ10)の機能安定化でいかになく発揮されている。シクロケムでは、独自にCoQ10のr-CD包接体(三十三リットル)を摂取した場合の肌改善効果を調べているが、シワなど六週間後に顕著な改善がみられ、肌弾力性などにも摂取前との有意差が認められたとしている。

CoQ10の吸収性向上・安定化など

CD応用展開を活発化

CoQ10は、高用量で摂取した場合のコラーゲン生成補助作用などが知られているものの、熱や光に非常に弱く、もともと脂溶性物質であるため、体内への吸収性が悪く、この改善が課題となっている。CDへの包接は極めて有効な吸収性向上の手法とされており、シクロケムでは独自に、そのメカニズムについて推論を立て、その実証にも取り組んでいる。

また最近、ワッカーはα-CDによるリノール酸の包接体で、化粧品と化学原料が対象のヨーロッパ・インベシジョンアワードを受賞した。リノール酸は、細胞膜の構成成分であり健康な肌を保つうえで、重要な機能を果たしているが、酸化しやすく臭気などももなう。これを安定化する技術としてCDが認められた。これによって今後、さまざまな用途が期待できるとしている。

シクロケム